

早風遺跡 i 地点第2次発掘調査現地公開の開催

宮城県多賀城跡調査研究所では、奈良・平安時代の陸奥国府である多賀城とともに、多賀城と関連が深い県内各地の遺跡の発掘調査を実施しています。

今年度は、加美町教育委員会との共催で早風遺跡 i 地点の第2次発掘調査を実施しています。このたび、その成果がまとまりましたので、報道機関の皆様を対象に現地公開を開催します。

当日は、所員が現地で発掘調査の成果を説明しますので、ぜひ取材して下さるようお願いいたします。

記

- 日時 令和8年7月8日（水曜日）（小雨決行）
午前10時30分から正午まで
※雨天時は賀美石地区公民館で説明
- 集合場所 加美郡加美町鳥屋ヶ崎字宮前41番1【別添地図参照】
※集合場所から発掘調査現場まで送迎いたしますので、必ず事前に現場携帯電話まで御連絡ください。
- 説明者 宮城県多賀城跡調査研究所 古田和誠 黒田智章
- 調査成果 当日、現場で調査成果をまとめた資料を配布いたしますが、概要は別添資料を参照ください。
- その他 発掘調査現場は山林内で、足場も悪い状態ですので、長靴等の汚れても構わない靴で御来跡ください。

はやかせ 早風遺跡 i 地点第 2 次発掘調査の成果について

調査の目的

宮城県多賀城跡調査研究所では、特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘調査と並行して、多賀城と関連が深い県内各地の遺跡の調査を進めています。令和 6 年度からは、加美町の早風遺跡を対象に調査を行っています。

早風遺跡は、奈良・平安時代の^{かみぐん}賀美郡の役所跡で国の史跡に指定されている^{ひがしやまかんが}東山官衙遺跡の北・東側に隣接しています。遺跡内には土手状の高まりと堀状のくぼみが広範囲にわたって明瞭に認められ、これまでの調査から、これらは奈良・平安時代の^{ついでい}築地塀・土塁・堀であり、東山官衙遺跡の防御施設（外郭区画施設）と考えられています。

今回は、遺跡の北端に位置し、昨年度の調査から入口施設の存在が予想されていた i 地点を対象に発掘調査を実施しました。

調査成果

東山官衙遺跡の外回りを囲む外郭の「北門」を初めて発見しました。

- ・ 外郭の塀に取り付く門としては、壇の越遺跡の西門に続く発見となります。
- ・ 門は掘立式で、柱穴の掘方は一辺 60～80cm です。位置を北側へずらして建て替えられており、この場所には長期間にわたって門が建てられ、使われ続けていたことが判明しました。
- ・ 古代の行政・軍事の拠点である城柵官衙遺跡において北門の発見例は希少です。特に、古い段階の門は格式が高い八脚門であった可能性があり、守りの要である北門の具体的な様相が明らかになりました。



古い段階の門の柱穴の位置（南から）



調査風景（東から）